

# サル子宮移植後、出産

## 慶応大チームが成功

サルの子宮を別のサルに移植して、妊娠と出産に成功したと、慶応大などの研究チームが18日、医学誌「ジャーナル・オブ・クリニカル・メディスン」で発表した。移植した子宮内での発育は良好で、生まれた子に異常はないという。チームは「子宮移植の課題解明につながる成果。国内でヒトを対象にした臨床研究を進める上で大きなステップ」と意義を強調した。

子宮移植は、生まれつき子宮が無かったり、がんなどで失ったりした女性が、自ら出産できるようになる技術として注目される。海外では今年10月までに米国などで82例の移植が行われ、37人が生まれた。国内には対象になり得る20〜30代の患者が推計約6万人お

り、慶応大のチームは臨床研究として国内初の移植を目指している。

チームは2017年2月、カニクイサルから子宮を摘出し、あらかじめ子宮を取りだしておいた別のカニクイサルに移植した。子宮が機能し始めた後、体外受精させた受精卵を移植し、18年5月に最初の妊娠を確認した。2回流産したが、3回目の妊娠で今年5月、帝王切開で子ザル14

が生まれた。子宮移植後の出産成功は、ヒト以外の霊長類で初めてだという。

移植後に母体に免疫抑制剤を投与したが、子ザルに奇形や病気は確認されず、元気に育っているという。チームによると、カニクイザルでの実験を通じ、ヒトの子宮移植に向けて、拒絶

反応の影響を調べたりできるようにするという。

慶応大は動物実験と並行し、ヒトを対象にした臨床研究の準備を進めており、18年に実施に向けた要望書を日本産科婦人科学会に提出した。国内の医学系学会が加盟する日本医学会が19年4月に検討委員会を設置し、議論している。

チームの木須伊織・慶応大特任助教(婦人科)は「子宮がない場合の不妊症は解決が難しい。今回の成功で、ヒトを対象にしても技術的な課題はクリアできる」と話した。

【渡辺諒】

# 子宮移植サル初の出産 慶大など成功

別のサルから子宮を移植したサルの妊娠・出産に成功したと、慶応大や東海大などの研究グループが発表した。人以外の霊長類が子宮移植後に出産したとする研究成果の報告は初めてという。国際医学誌に18日掲載される。

研究は、臓器の構造や機能が人と類似するカニクイサルで行った。移植を受けたサル

## 臨床研究を計画

は2018年5月以降、体外受精で2回妊娠したが、いずれも流産。今年1月上旬に再び妊娠を確認し、5月上旬に帝王切開で出産した。

先天的な病気で子宮のない人や、がんなどで子宮を摘出せざるを得ない20〜30歳代の女性は、国内に約6万人いると推定される。米国やスウェーデンなどでは、すでに人の子宮移植が行われており、今年10月現在で82例が実施され、37人の子どもが生まれている。

慶大のチームは、生まれつき子宮がない「ロキタンスキ1症候群」の女性を対象に、親族を提供者とする国内初の臨床研究を計画している。同大産婦人科の木須伊織・特任助教は「臨床研究の実現に向

けて大きなステップになる」と話す。

ただ、子宮移植は提供者の体の負担や、移植後に必要な免疫抑制剤の胎児への影響などが懸念される。また、国内の臓器移植は命に関わる病気が対象になっており、子宮移植には倫理的な課題も指摘されている。

このため、日本医学会は生殖、移植医療、生命倫理の専門家による検討会を設置し、子宮移植実施の是非について議論を進めている。